

岡山県感染症週報 2013 年 第 4 週 (1 月 21 日～1 月 27 日)

◎ 岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です。

◎ 岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症警報』発令中です。

◆2013 年 第 4 週 (1/21～1/27) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 2 週 2 類感染症 結核 6 名 (60 代 男 1 名・女 1 名、70 代 男 2 名・女 1 名、80 代 女 1 名)
 第 3 週 2 類感染症 結核 3 名 (20 代 男 1 名、60 代 男 1 名、70 代 男 1 名)
 第 4 週 2 類感染症 結核 2 名 (50 代 女 2 名)
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (10 代 男)
 5 類感染症 梅毒 1 名 (40 代 男)

■定点把握感染症の発生状況

○インフルエンザは、県全体で 2,345 名 (定点あたり 15.37→27.92 人) の報告があり、さらに増加しました。
 ○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、増加傾向です。
 ○感染性胃腸炎は、前週とほぼ同数でした (定点あたり 8.43→8.07 人)。
 真庭地域では、患者が増加し、再び発生レベル 3 になりました。

【第 5 週 速報】

○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 111 施設でありました。(1 月 28 日～1 月 31 日まで)

1. **インフルエンザ**は、県全体で 2,345 名 (定点あたり 27.92 人) の報告があり、前週 (15.37 人) より大幅に増加しました。特に、倉敷市 (39.25 人)、備中地域 (35.83 人) では患者が急増し、警報発令基準である定点あたり 30.00 人を越え、発生レベル 3 になりました。インフルエンザとみられる学校等の臨時休業も 117 施設から報告され、前週 (39 施設) より大きく増加しました。小児を中心に県内全域で急速な流行拡大がつづいています。岡山県は「インフルエンザ注意報」を発令し、ひきつづき注意を呼びかけています。県内の詳しい発生状況などは『インフルエンザ情報』をご覧ください。
 全国の、第 3 週 (1/14～1/20) 集計によると、定点あたり 22.58 人であり、前週 (12.07 人) よりも大きく増加しました。9 県で警報レベル、残り全ての都道府県で注意報レベルに達し、全ての都道府県で患者増加が見られました。
2. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第 4 週に 1 名が報告され、2013 年は第 4 週までに 2 名の発生がありました。冬でも患者が発生しています。食肉は中心部まで火を通すなど、通常の食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。
3. **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、第 2 週から増加傾向です (第 4 週 定点あたり 1.09 人)。地域別では、岡山市 (1.50 人)、倉敷市 (2.18 人)、美作地域 (1.50 人) で患者が増加しています。年齢別では 4～5 歳が最も多く、3 歳以上の幼児・児童に多くみられます。
 A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A 群溶血性レンサ球菌による上気道感染症で、例年、冬と春から初夏にかけての 2 回の流行がみられます。突然の発熱と体のだるさ、咽頭痛によって発症し、しばしば嘔吐を伴います。また、口腔内に小点状出血や莓舌がみられることがあります。
4. **感染性胃腸炎**の定点あたり患者数は、前週とほぼ同数でした (定点あたり 8.43→8.07 人)。多くの地域では、患者数が減少あるいは横ばいですが、真庭地域では患者が増加し、再び発生レベル 3 になりました。県内の発生状況など詳しくは『感染性胃腸炎情報』をご覧ください。

◎インフルエンザ、感染性胃腸炎、RSウイルス感染症など冬に流行がみられる感染症が増加しています。

外出後や調理前・食事の手洗い、うがいを励行し、人混みでのマスクの着用など感染予防に努めてください。
 また、感染した時は、咳エチケットを守るなど他の人にうつさないように気をつけ、体調の悪いときは早めに医療機関を受診してください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★★★★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		
突発性発疹		★★	百日咳		★
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		

【記号の説明】 前週からの推移:



: 2 倍以上の減少



: 1.1～2 倍未満の減少



: 1.1 未満の増減



: 1.1～2 倍未満の増加



: 2 倍以上の増加

発生状況: 空白:発生なし ★:僅か ★★:少し ★★★:やや多い ★★★★:多い ★★★★★:非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

インフルエンザ情報 2013 年 第 4 週 (1 月 21 日 ~ 1 月 27 日)

岡山県は「インフルエンザ注意報」発令中です。

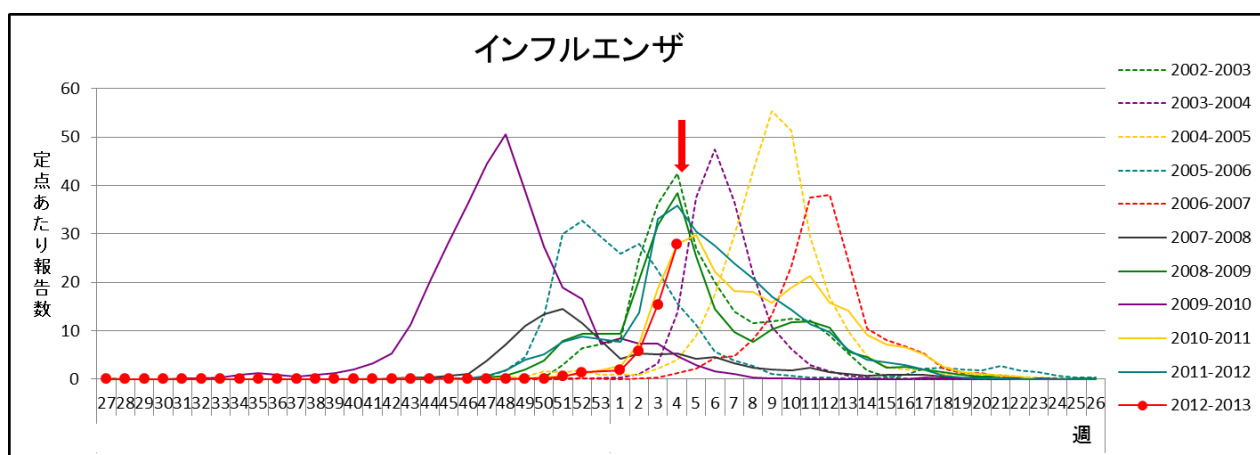
➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 2,345 名（定点あたり 15.37 → 27.92 人）の報告があり、さらに増加しました。
- 倉敷市、備中地域で発生レベル 3 になりました。
- 県内で発生したインフルエンザ患者 2 名から、インフルエンザウイルス AH3 型が検出されました。
- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 117 施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者 12 名の報告がありました。

【第 5 週 速報】

- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が、111 施設でありました。（1 月 28 日～1 月 31 日まで）

▽岡山市 37 ▽倉敷市 28 ▽備前地域 14 ▽備中地域 16 ▽備北地域 6 ▽真庭地域 4 ▽美作地域 6



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 2,345 名（定点あたり 15.37 → 27.92 人）の報告があり、前週よりさらに増加し、警報発令基準（定点あたり 30.00 人）に近い報告数になりました（84 定点医療機関報告）。岡山県では「インフルエンザ注意報」を発令し、ひきつづき注意喚起を図っています。

地域別では、倉敷市 (23.44 → 39.25 人)、備中地域 (14.17 → 35.83 人) で定点あたり 30.00 人を越え、大きな流行が発生したと思われる発生レベル 3 になりました。また、岡山市、備前地域、美作地域、真庭地域、備北地域では定点あたり 10.00 人を越え、大きな流行が発生する可能性があるレベル 2 になるなど、県南部を中心に流行が拡大しています。

第 4 週の学校等の臨時休業は 117 施設から報告があり、前週の 39 施設から大幅に増加しました。第 5 週も報告がつづいていることから幼稚園児・小学生・中学生を中心とした感染の拡大が懸念されます。

インフルエンザは現在流行期に入っています。感染予防を心がけ、症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

◆インフルエンザは流行期に入っています。さらなる感染予防に努めて下さい。

【手洗い・うがい】

外から帰ったときには手洗い・うがいを心がけましょう。アルコールを含んだ消毒液で手を消毒するのも効果的です。

【咳エチケット】

インフルエンザは、インフルエンザにかかった人の咳、くしゃみ、つばなどの飛沫と共に放出されたウイルスを、鼻腔や気管など気道に吸入することによって感染します。インフルエンザが流行していますので、周囲の方々のためにも「咳エチケット」に心がけましょう。

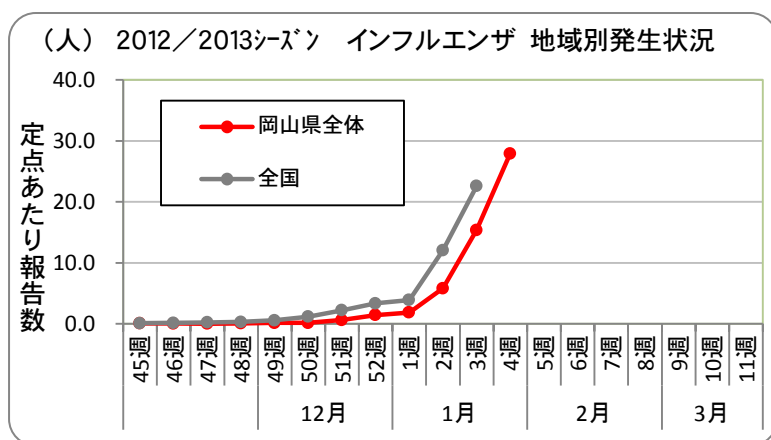
※咳エチケット：人に向かって咳やくしゃみをしないこと。とっさにせきやくしゃみが出そうなときは、周囲の人から顔をそらし、そで口で口をおおう、また用意があればティッシュなどで口・鼻をおおいます。咳やくしゃみがつづく時はマスクを着用してください。鼻水・痰などを含んだティッシュはすぐにナイロン袋に入れて密封したり、ふた付きのゴミ箱に捨て、直ちに手を洗いましょう。

1. 地域別発生状況

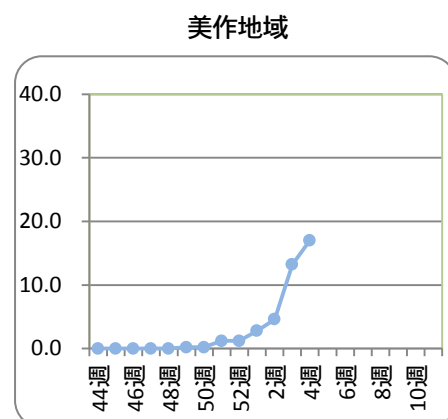
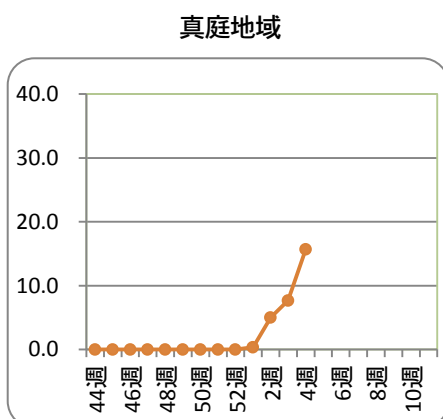
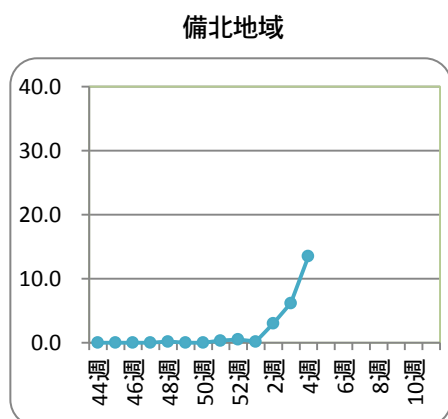
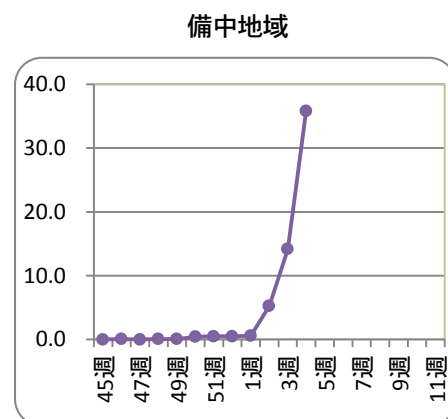
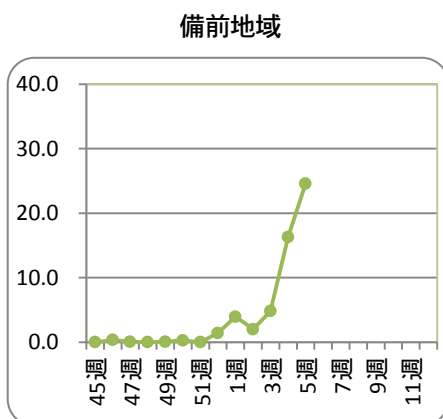
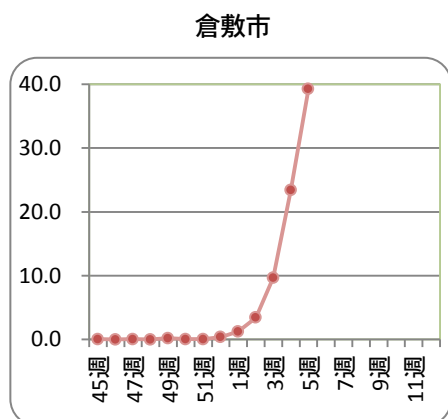
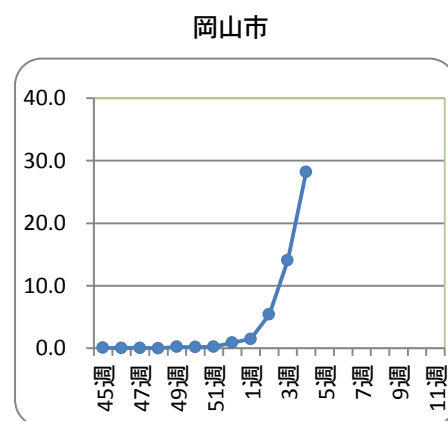
第4週（1/21～1/27） 前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	2,345		備 中	患者数	430	
	定点あたり	27.92			定点あたり	35.83	
岡山市	患者数	620		備 北	患者数	81	
	定点あたり	28.18			定点あたり	13.50	
倉敷市	患者数	628		真 庭	患者数	47	
	定点あたり	39.25			定点あたり	15.67	
備 前	患者数	369		美 作	患者数	170	
	定点あたり	24.60			定点あたり	17.00	

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 1.1～2倍未満の減少 1.1未満の増減
1.1～2倍未満の増加 2倍以上の増加



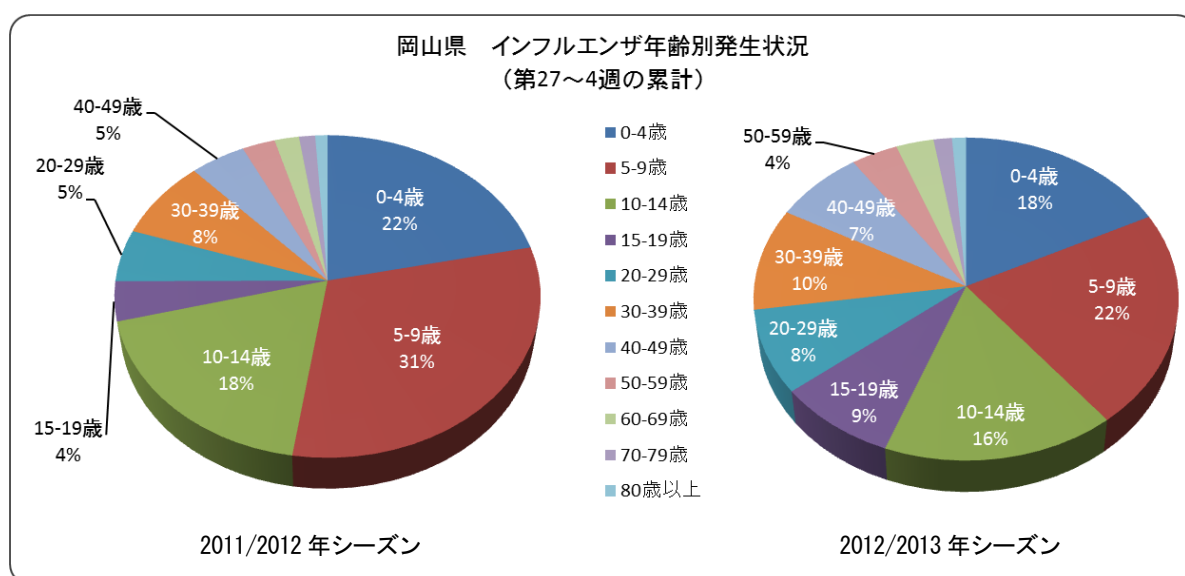
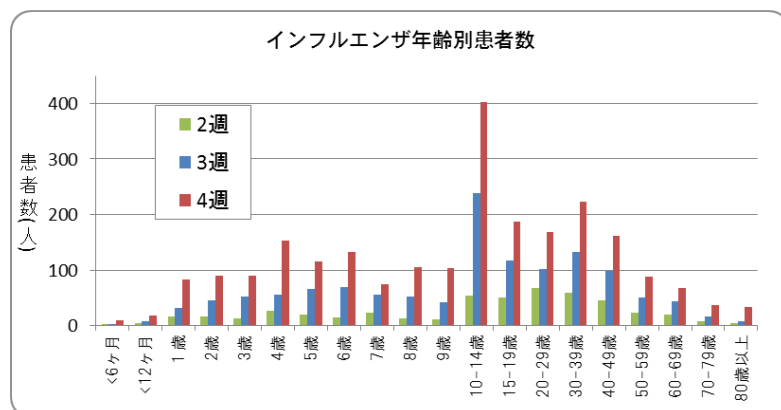
全国集計第3週(1/14～1/20)の定点あたり患者数は22.58人となり、前週(12.07人)よりも大きく増加しました。9県で警戒レベル、残りの全ての都道府県で注意レベルになっています。



2. 年齢別発生状況 第4週（1/21～1/27）

15歳未満の幼児・幼稚園児・小学生・中学生に該当する年齢層が患者の56%を占めています。集団生活の中での感染に注意してください。

また、昨シーズンの同時期までの年齢割合に比べ、高校生・成人の割合が多くなっています。



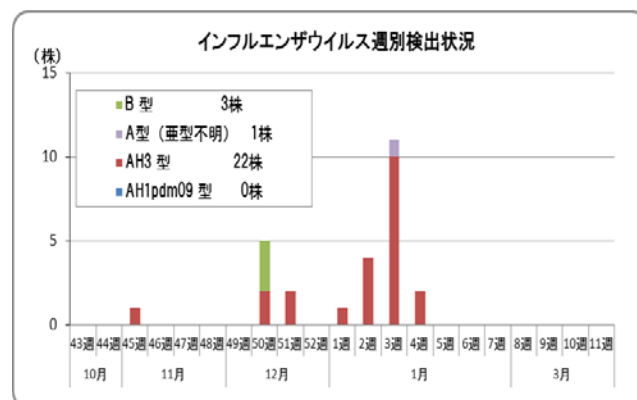
3. インフルエンザウイルス検出状況 第4週（1/21～1/27）

第4週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、県内で発生したインフルエンザ患者2名からAH3型が検出されました。これまでに検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が22株、A型（亜型不明）が1株、B型が3株です。

検出されたウイルスの85%はAH3型ですが、簡易検査ではB型も検出されています。一度インフルエンザにかかっても、型の異なるインフルエンザウイルスに再び感染することがありますので注意が必要です。

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が最も多く90%、B型が7%、AH1pdm09型が3%の順になっており、昨シーズン同様AH3型が主流になっています。

[\(インフルエンザウイルス分離・検出速報 国立感染症情報センター\)](#)



ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルス AH3 型	2013 年第 4 週	2013 年 1 月 22 日	倉敷市	小学生	女	集団発生事例
インフルエンザウイルス AH3 型	2013 年第 4 週	2013 年 1 月 22 日	倉敷市	小学生	男	集団発生事例

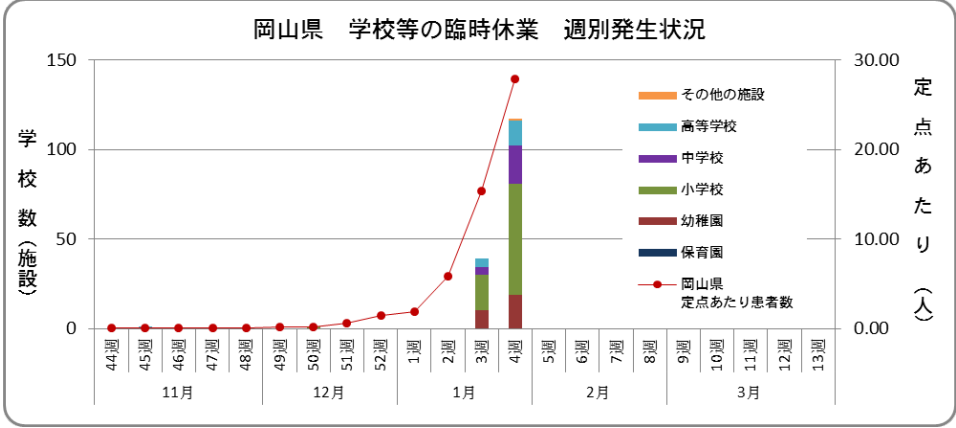
4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数 第4週（1/21～1/27）

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 117 施設でありました。

備北地域、真庭地域では、今シーズン初めてとなる臨時休業の報告があり、県内全地域から臨時休業が報告され施設数も急増しています。

【第4週 臨時休業施設数】

▽岡山市 42 ▽倉敷市 23 ▽玉野市 6 ▽井原市 6 ▽総社市 5 ▽矢掛町 5 ▽新見市 4
▽瀬戸内市 4 ▽美作市 3 ▽備前市 3 ▽赤磐市 2 ▽和気町 2 ▽吉備中央町 2 ▽浅口市 2
▽高梁市 2 ▽津山市 2 ▽勝央町 1 ▽笠岡市 1 ▽早島町 1 ▽真庭市 1



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳 第4週

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	1669	2202	1272	1661	117	158	4	5	41	53	72	100	H 24. 11. 6
岡山市	675	893	496	657	42	56	0	0	8	10	34	46	H24. 11. 6
倉敷市	381	441	280	322	23	29	0	1	2	4	21	24	H25. 1. 15
備前地域	250	346	195	263	19	26	1	1	9	12	9	13	H25. 1. 15
備中地域	211	290	175	240	20	28	2	2	14	18	4	8	H24. 12. 12
備北地域	51	51	46	46	6	6	1	1	4	4	1	1	H25. 1. 21
真庭地域	16	16	16	16	1	1	0	0	1	1	0	0	H25. 1. 21
美作地域	85	165	64	117	6	12	0	0	3	4	3	8	H25. 1. 15

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています

2) 臨時休業施設数の内訳

第4週：117 施設 累計：158 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	19	29	62	83	21	25	14	20	1	1

◆ 学校等の臨時休業が増加しています。

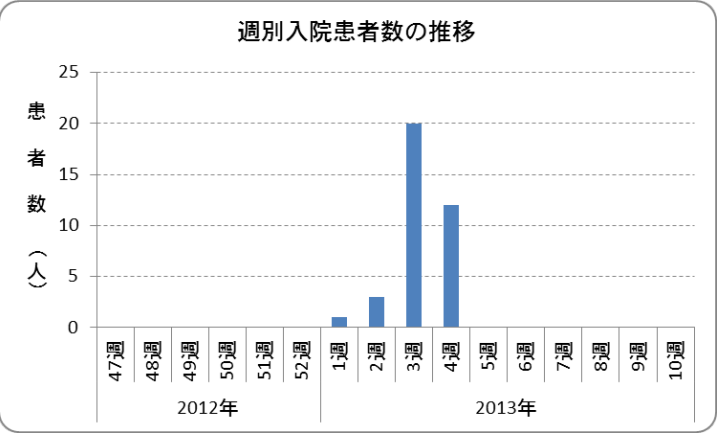
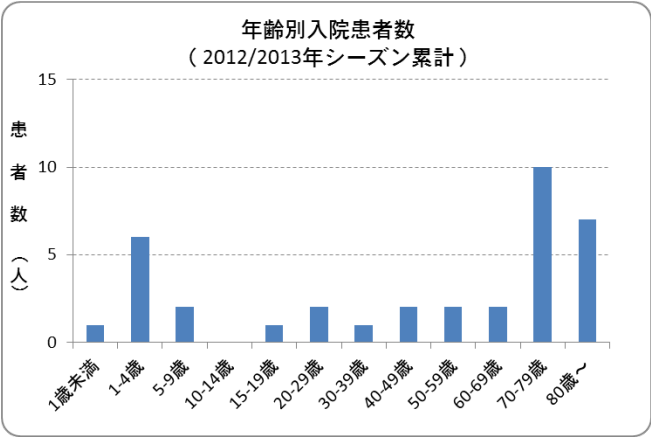
平成 24 年 4 月 1 日より、学校保健安全法施行規則が一部改正され、インフルエンザの出席停止期間が「解熱した後 2 日を経過するまで」から「発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日（幼児にあっては、3 日）を経過するまで」に改正されました。水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

※ [学校保健安全法施行規則の一部を改正する省令の施行について\(通知\)](#)

5. インフルエンザによる入院患者報告数 第4週（1/21～1/27）（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者 12 名（幼児 2 名、30 代 1 名、40 代 1 名、50 代 2 名、60 代 1 名、70 代 5 名）の報告がありました。10 歳以下の幼児、70 歳以上の高齢者で入院患者が増加しています。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第4週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数		1	1				1	1	2	1	5		12
ICU入室										1			1
人工呼吸器の利用										1			1
頭部CT検査(予定含)		1									1		2
頭部MRI検査(予定含)													
脳波検査(予定含)													
いずれにも該当せず			1				1	1	2		4		9

* 重複あり

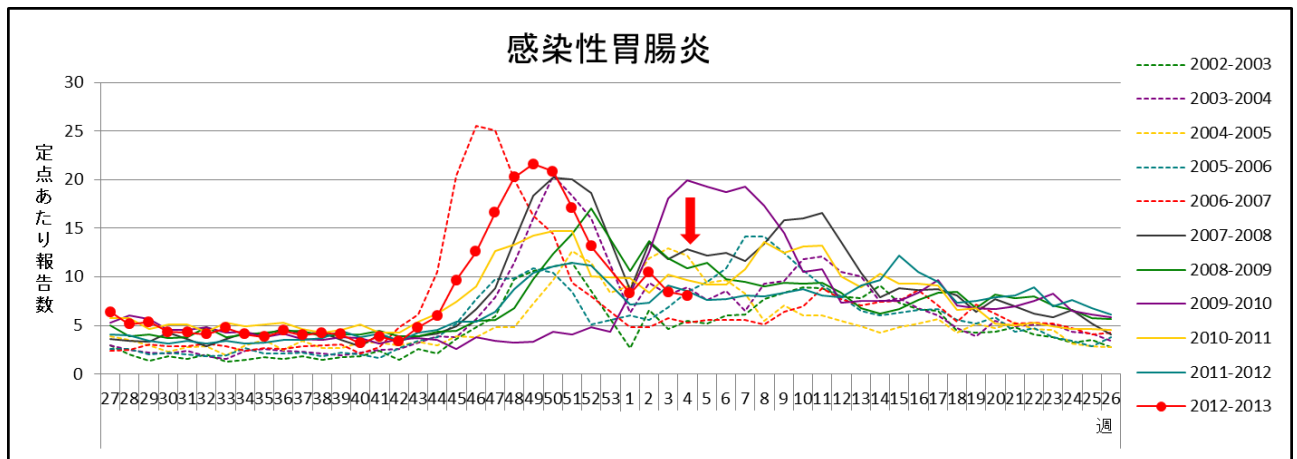
【平成24年9月3日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	1	6	2		1	2	1	2	2	2	10	7	36
ICU入室										1			1
人工呼吸器の利用										1			1
頭部CT検査(予定含)		2	1		1	1					1		6
頭部MRI検査(予定含)		1			1								2
脳波検査(予定含)													
いずれにも該当せず	1	4	1			1	1	2	2	1	9	7	29

* 重複あり

感染性胃腸炎情報 2013 年 第 4 週 (1 月 21 日 ~ 1 月 27 日)

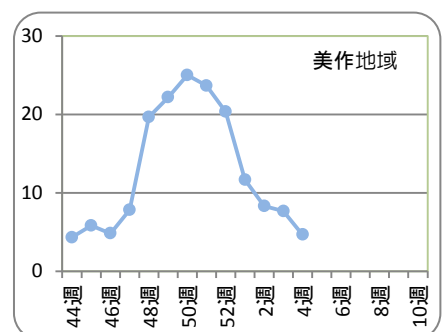
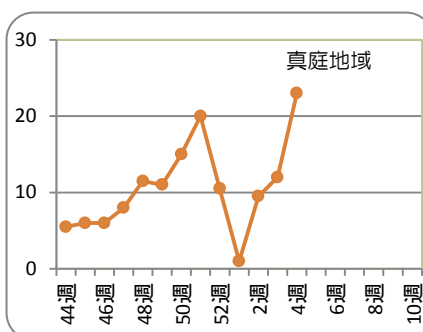
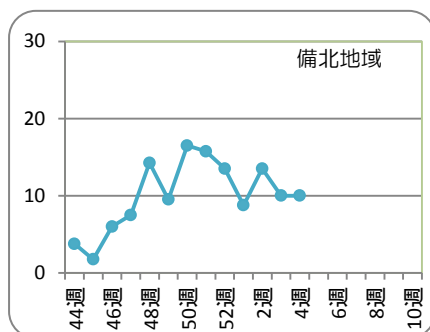
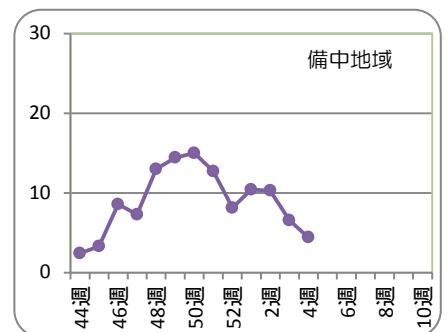
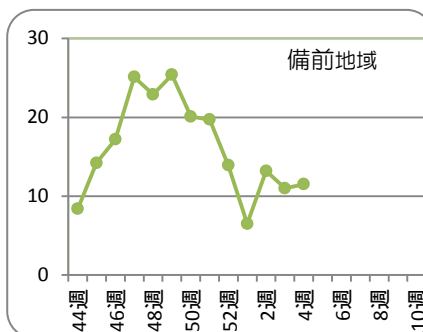
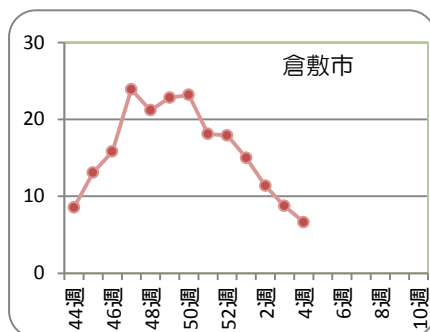
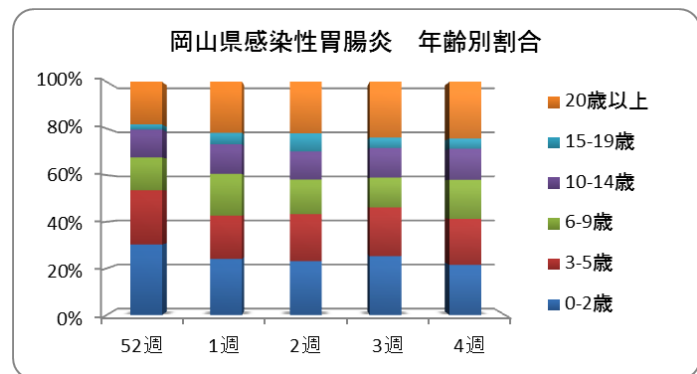
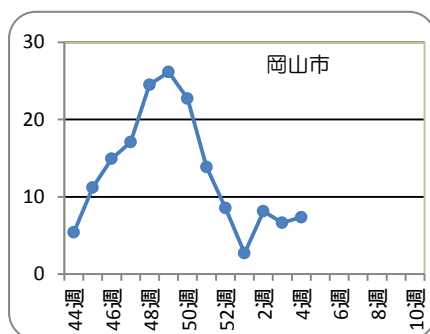
- 岡山県内の患者報告数は 436 名（定点あたり 8.07 人）であり、前週とほぼ同数でした。（54 定点医療機関報告）
 ○真庭地域は、再び発生レベル 3 になりました。



※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、前週とほぼ同数でした（定点あたり 8.43 → 8.07 人）。真庭地域（12.00 → 23.00 人）では、定点あたり 20.00 人を越え、再び発生レベル 3 になりました。また、備前地域（11.50 人）、備北地域（10.00 人）でも患者が多い状態で推移しています。年齢別では、5 歳以下の幼児が全体の 41%、また、20 歳以上の成人が 24% を占めています。真庭地域では、患者の 56% が 20 歳以上であり、乳幼児、小児だけでなく、全ての年齢層で注意が必要です。大きな流行は過ぎましたが、流行シーズンはつづいています。手洗いの徹底や、下痢便・吐物の適切な処理などの感染予防と拡大防止に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況



保健所別報告患者数 2013年 4週 (2013/01/21～2013/01/27)

2013年1月30日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2345	27.92	620	28.18	628	39.25	369	24.60	430	35.83	81	13.50	47	15.67	170	17.00
RSウイルス感染症	26	0.48	6	0.43	7	0.64	—	—	7	1.00	—	—	—	—	6	1.00
咽頭結膜熱	8	0.15	3	0.21	1	0.09	—	—	2	0.29	1	0.25	—	—	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	59	1.09	21	1.50	24	2.18	3	0.30	2	0.29	—	—	—	—	9	1.50
感染性胃腸炎	436	8.07	103	7.36	73	6.64	115	11.50	31	4.43	40	10.00	46	23.00	28	4.67
水痘	41	0.76	19	1.36	11	1.00	1	0.10	6	0.86	1	0.25	1	0.50	2	0.33
手足口病	6	0.11	5	0.36	—	—	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	22	0.41	10	0.71	6	0.55	2	0.20	2	0.29	2	0.50	—	—	—	—
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.25	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	3	0.06	—	—	1	0.09	—	—	2	0.29	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	18	0.33	2	0.14	3	0.27	11	1.10	2	0.29	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	2	0.17	2	0.40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1.00	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 4週 (2013/01/21～2013/01/27)

2013年1月30日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2345	27.92	620	28.18	628	39.25	369	24.60	430	35.83	81	13.50	47	15.67	170	17.00
咽頭結膜熱	8	0.15	3	0.21	1	0.09	—	—	2	0.29	1	0.25	—	—	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	59	1.09	21	1.50	24	2.18	3	0.30	2	0.29	—	—	—	—	9	1.50
感染性胃腸炎	436	8.07	103	7.36	73	6.64	115	11.50	31	4.43	40	10.00	46	23.00	28	4.67
水痘	41	0.76	19	1.36	11	1.00	1	0.10	6	0.86	1	0.25	1	0.50	2	0.33
手足口病	6	0.11	5	0.36	—	—	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.25	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	3	0.06	—	—	1	0.09	—	—	2	0.29	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	18	0.33	2	0.14	3	0.27	11	1.10	2	0.29	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	2	0.17	2	0.40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2013年 第4週 2013/01/21～2013/01/27)

疾病名	合計 -6ヶ月-12ヶ月			1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	2345	10	18	83	90	89	153	116	133	74	105	104	402	188	169	223	162	88	67	37	34

疾病名	合計 -6ヶ月-12ヶ月			1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	26	8	8	2	5	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	8	-	1	3	1	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	59	-	-	2	2	13	9	10	4	8	3	2	4	1	1
感染性胃腸炎	436	3	19	32	40	26	36	24	27	16	18	12	58	19	106
水痘	41	-	4	11	9	2	5	4	1	3	1	1	-	-	-
手足口病	6	-	-	3	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	22	1	10	9	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ヘルパンギーナ	3	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	18	-	-	-	2	2	2	1	4	-	3	3	-	-	1

疾病名	合計 -6ヶ月-12ヶ月			1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

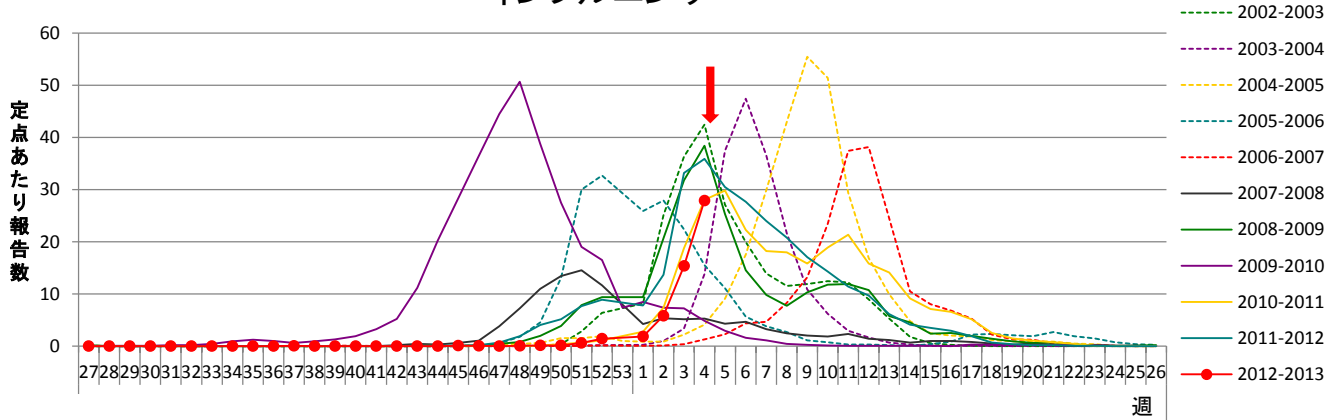
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

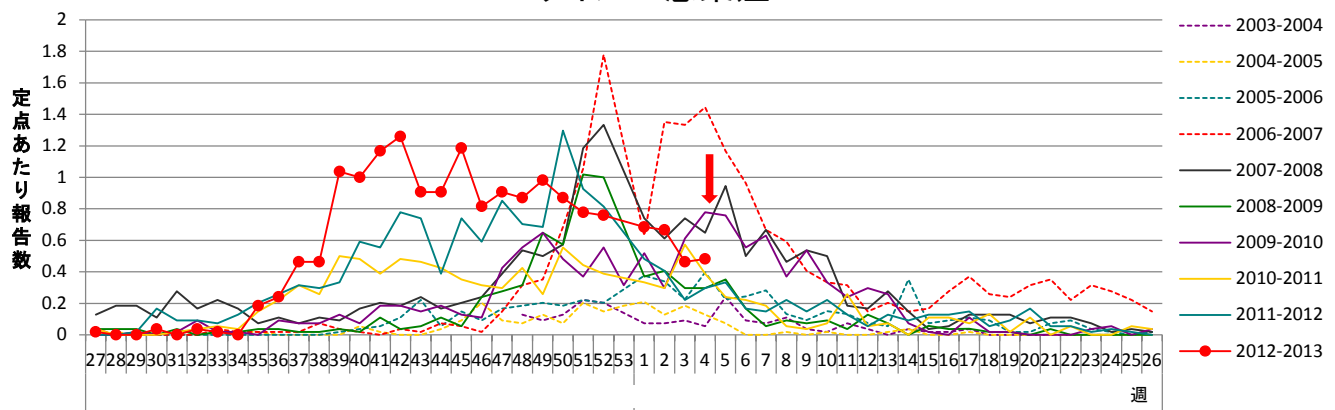
2013 年 4 週

分類	疾病名	2013		2012	疾病名	2013		2012	疾病名	2013		2012
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	2	14	475	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	1	2	169
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	-	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	2
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-
	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1	東部ウマ脳炎	-	-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	-	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	-
	マラリア	-	-	-	野兎病	-	-	-	ライム病	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-
	レジオネラ症	-	1	29	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	1	11	ウイルス性肝炎*3	-	-	7	急性脳炎*4	-	-	2
	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	1
	後天性免疫不全症候群	-	-	15	ジアルジア症	-	-	3	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	1	1	7	破傷風	-	-	1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	2	風しん	-	1	6
	麻しん	-	-	6		-	-	-		-	-	-

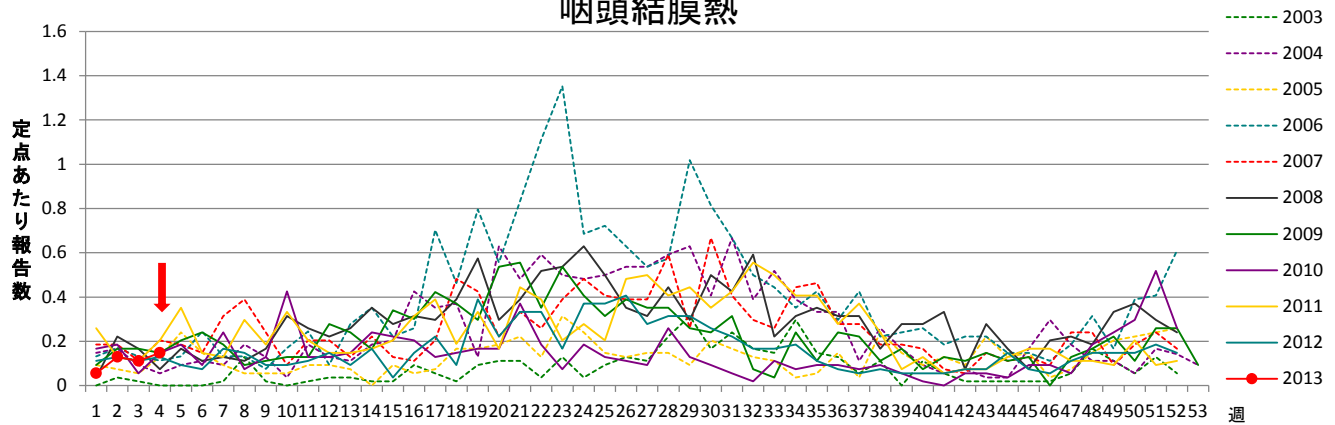
インフルエンザ



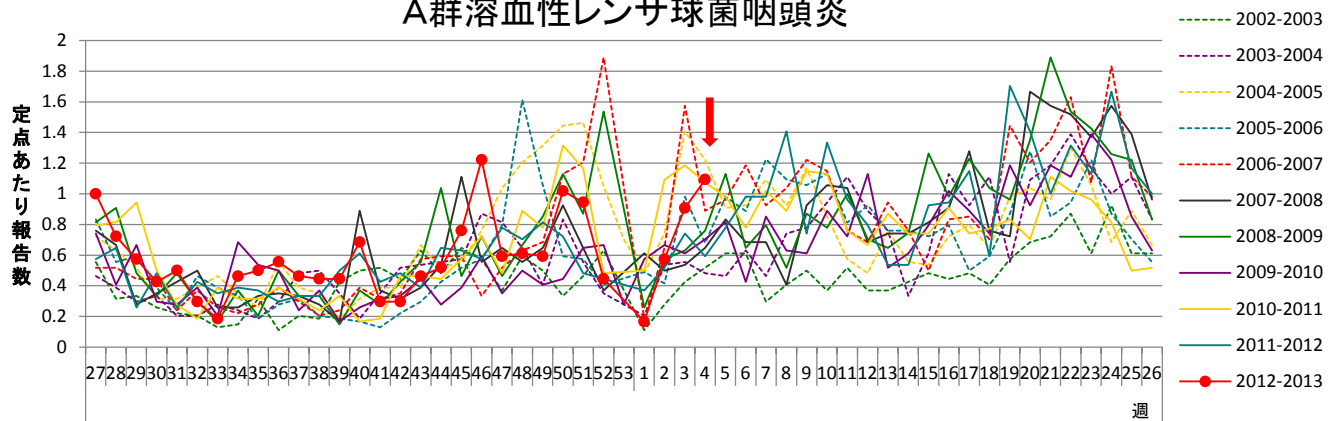
RSウイルス感染症



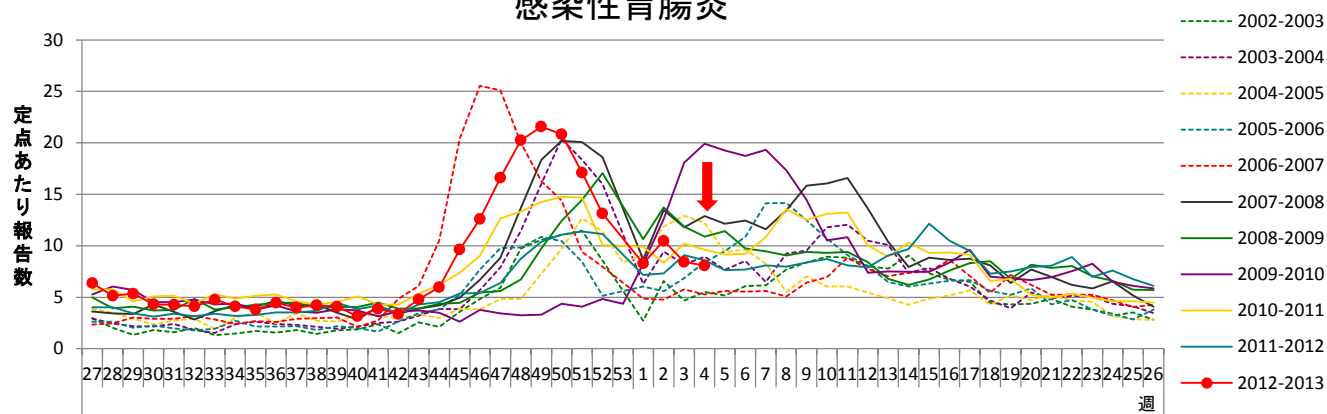
咽頭結膜熱



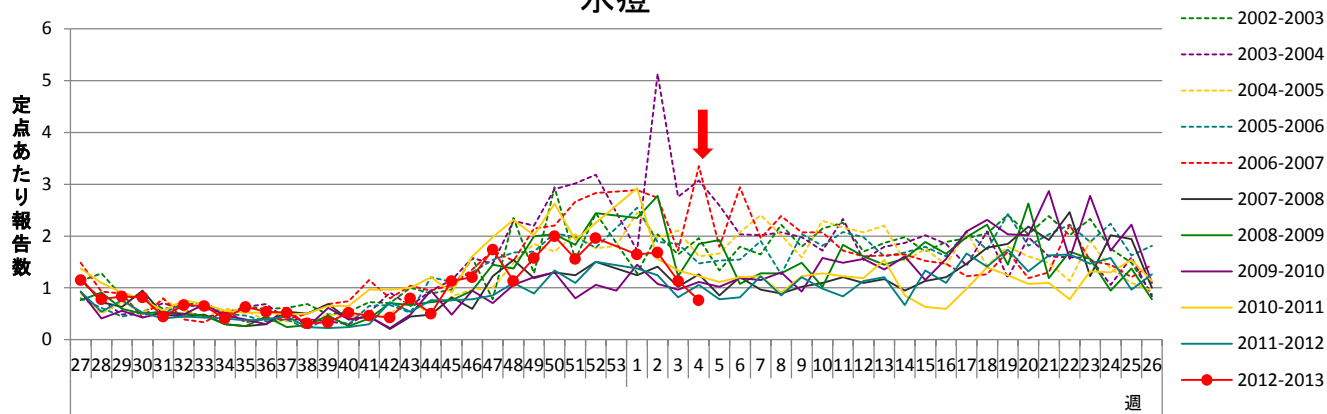
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



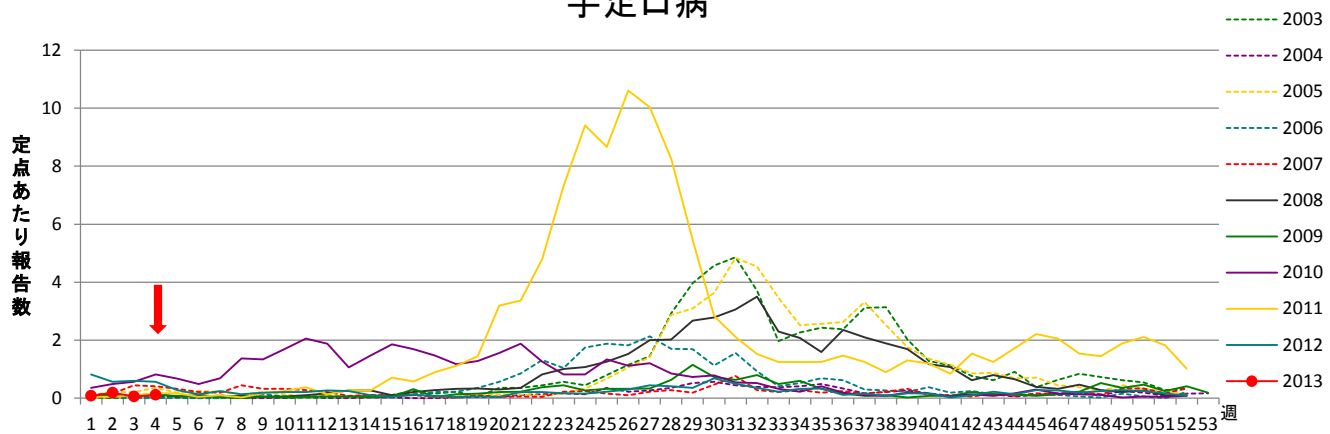
感染性胃腸炎



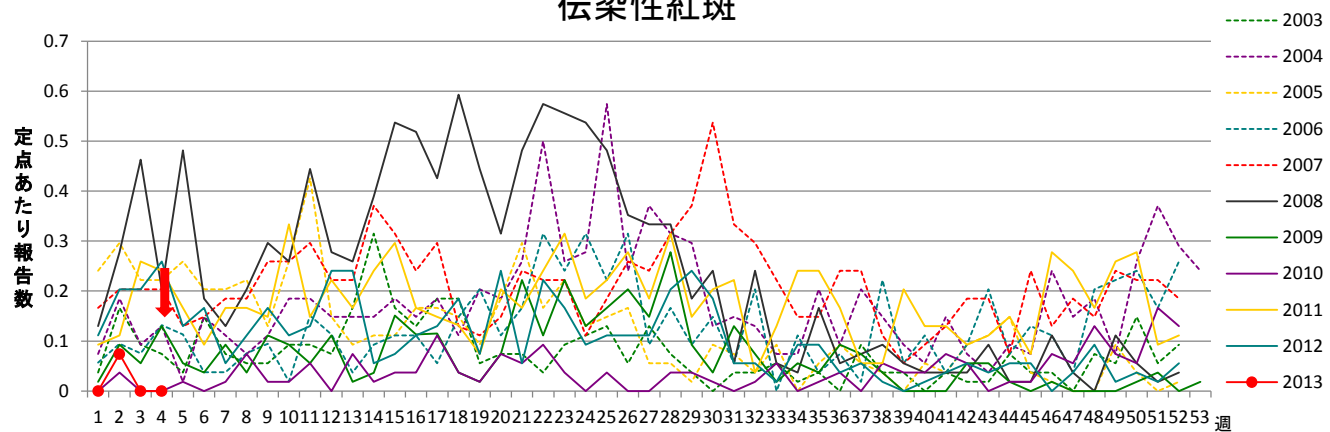
水痘



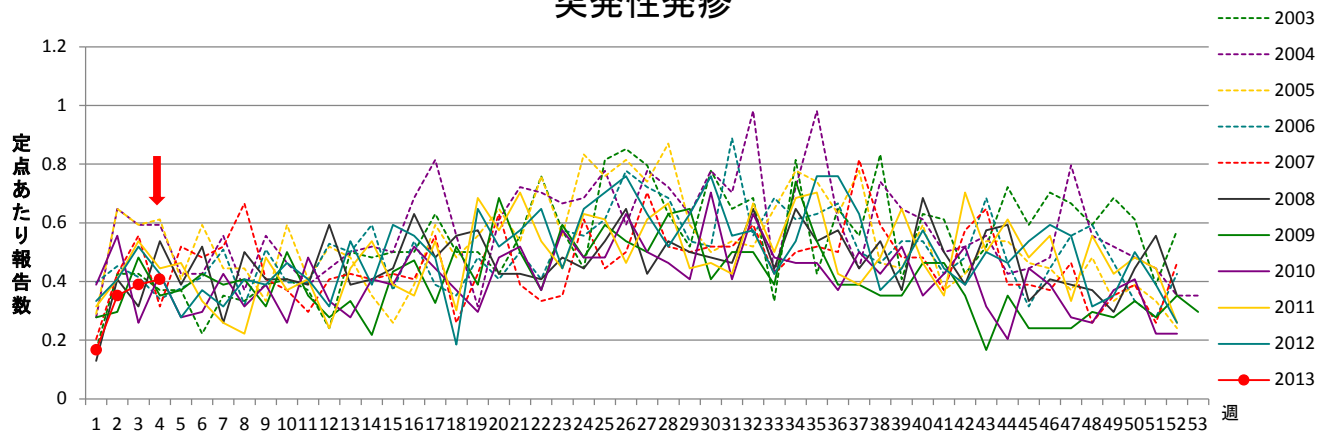
手足口病



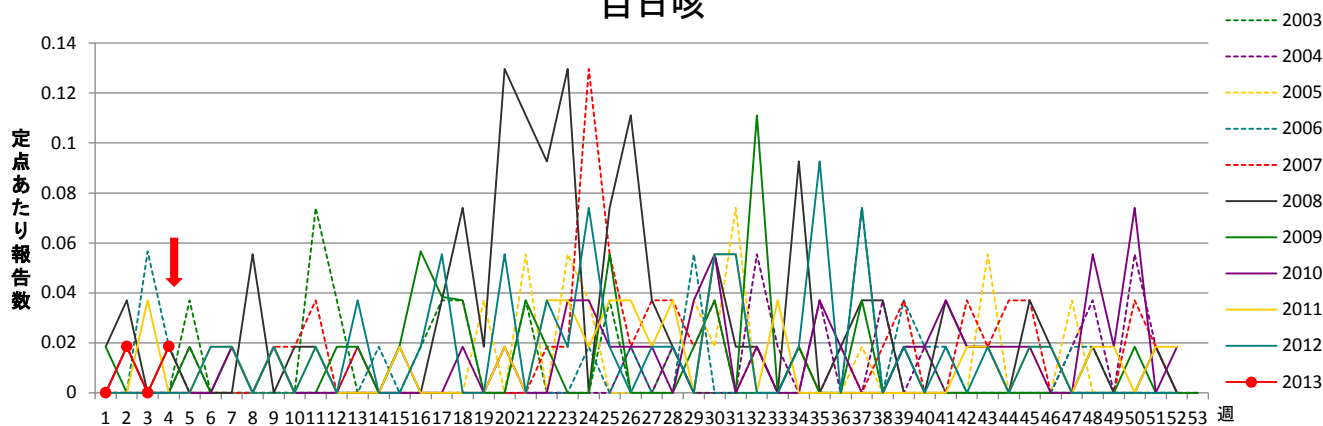
伝染性紅斑



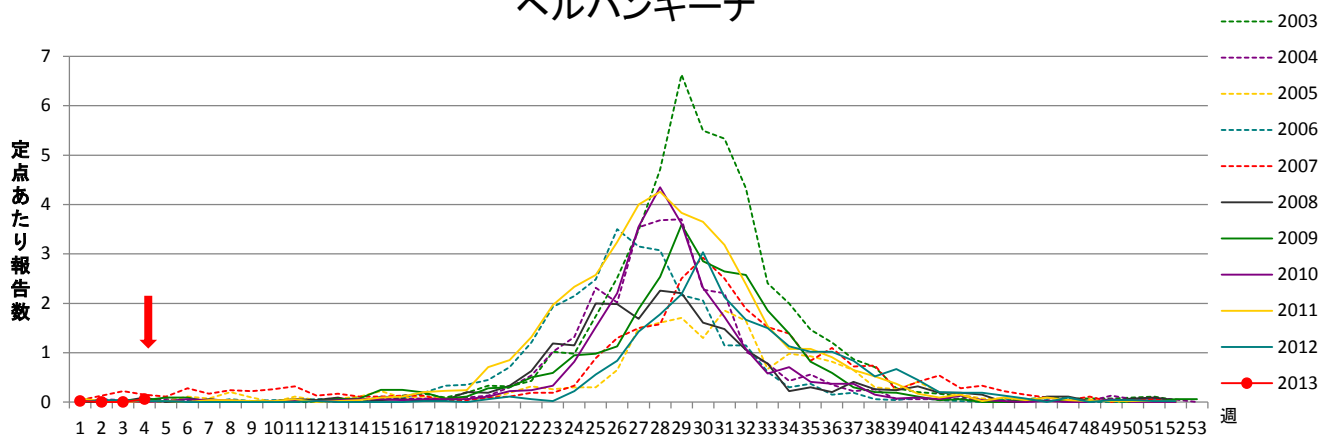
突発性発疹



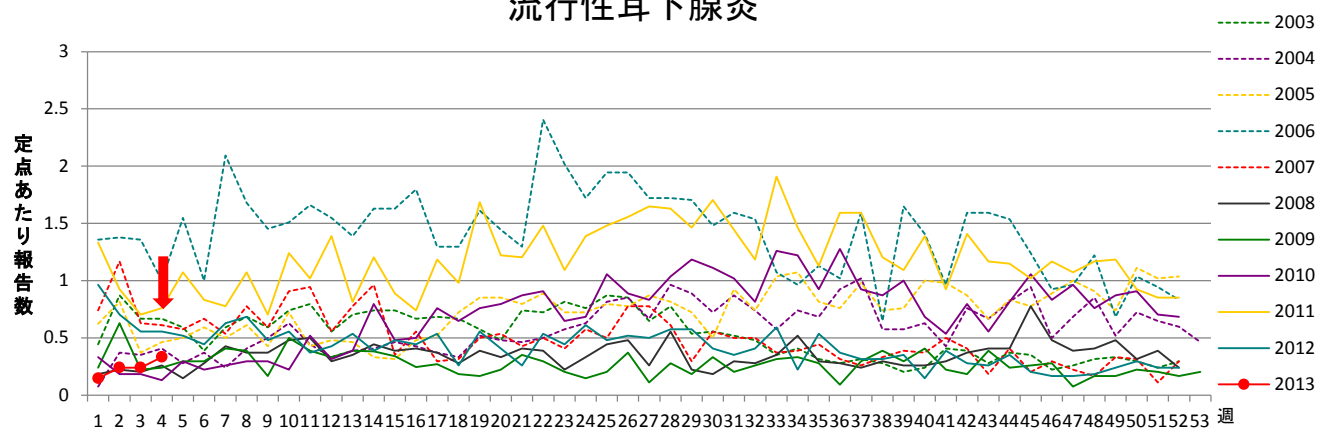
百日咳



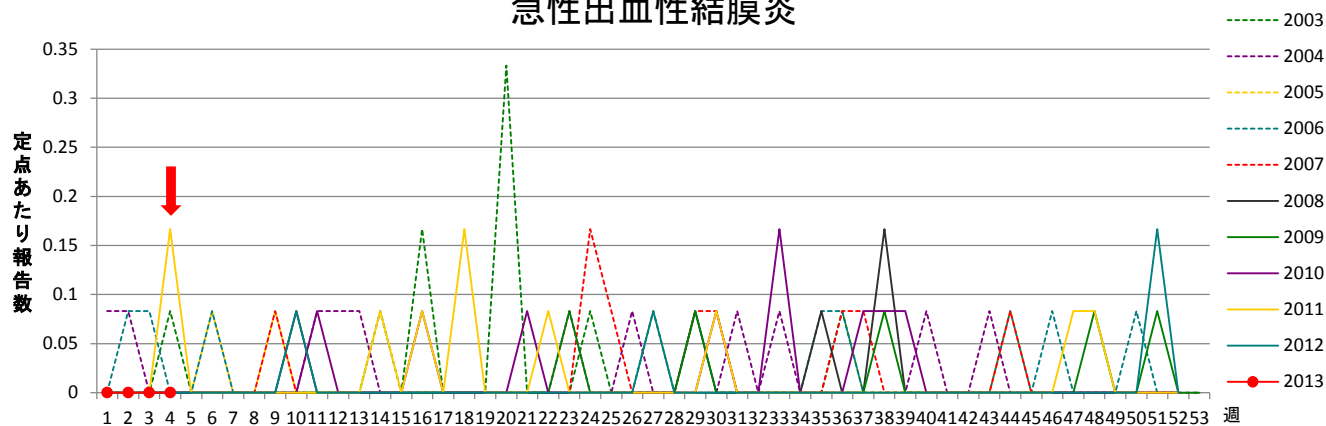
ヘルパンギーナ



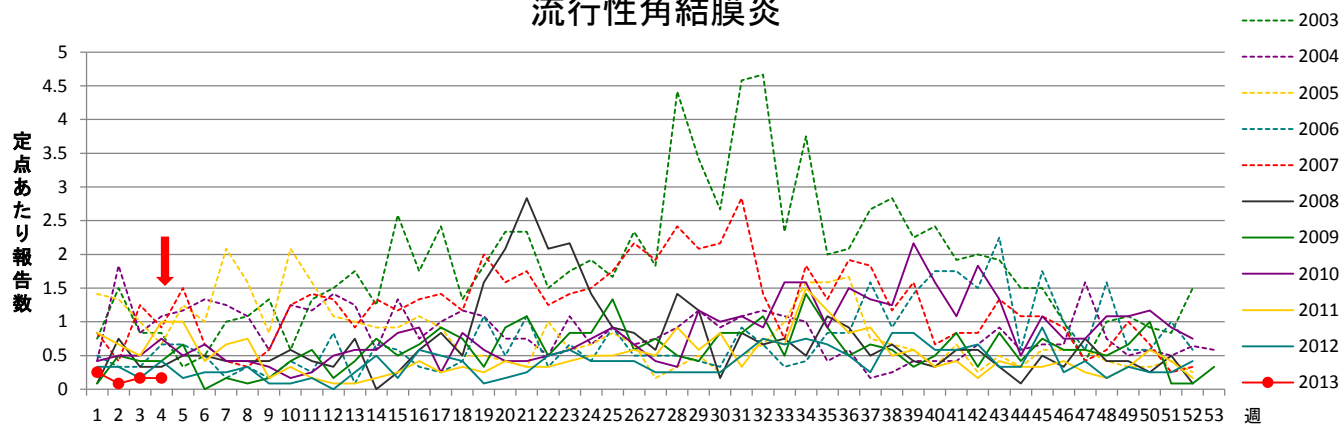
流行性耳下腺炎



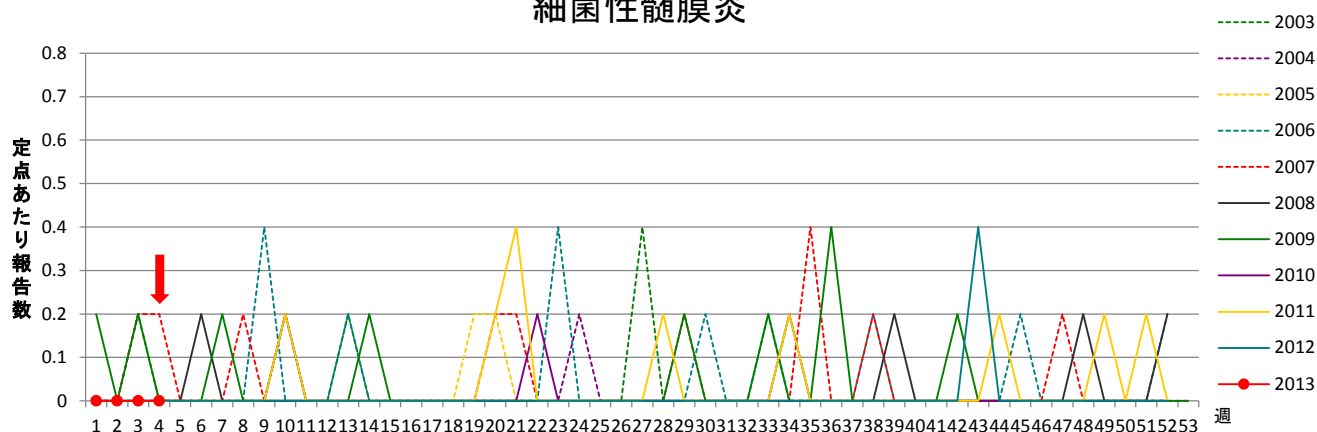
急性出血性結膜炎



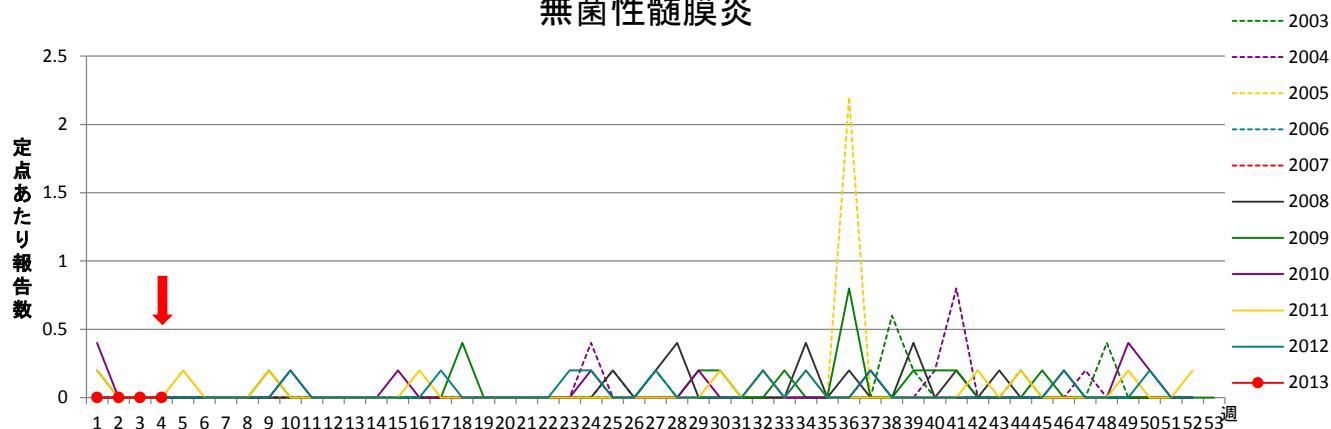
流行性角結膜炎



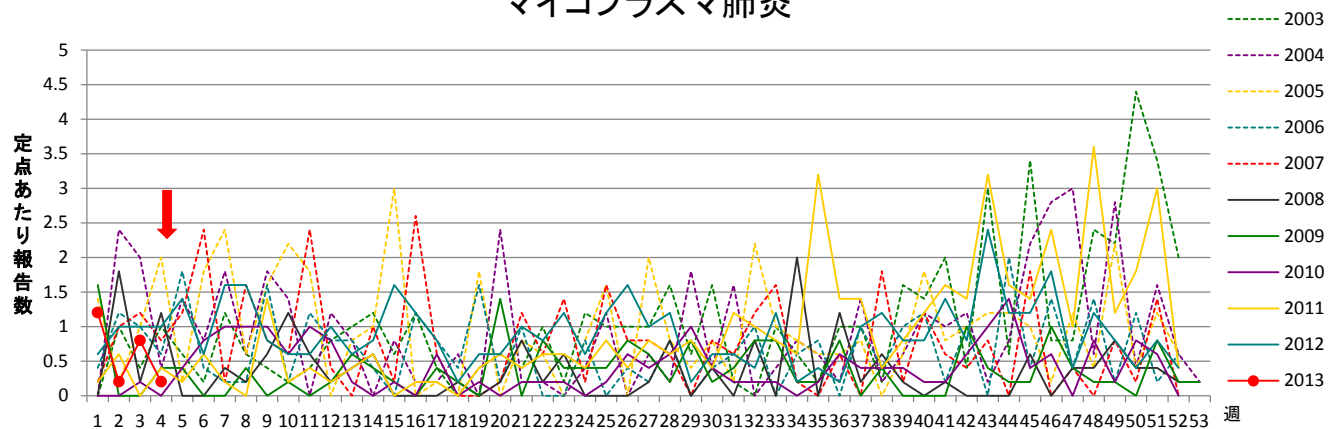
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

